

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 15 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
香川県小豆島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
小豆島のニホンザルにおけるオスの繁殖戦略についての調査	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 8 月 8 日 ~ 平成 30 年 8 月 11 日 (4 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
銚子溪 自然動物園 お猿の国	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の調査の目的は①調査群の識別個体を確認すること、②赤ん坊からの DNA 採取の方法を考案すること、③種子散布研究用の糞を採取すること、④トラップカメラのデータを回収することであった。①について、識別している大人個体が前回の調査から消失していることはなかった。一方で前回出産を確認した母親の赤ん坊が消失しているケースがあった。昨年 9 月に小豆島でニホンザルの繁殖の研究を始めてから約一年が経過したが、昨冬から大人が大量に消失したこと、何頭か赤ん坊が行方不明になったこと(おそらく死亡したと思われる)などから、交尾行動を観察したメスの赤ん坊で、かつ父性を調べることが出来そうな仔の数は当初の予定よりも大幅に少なくなってしまった。計画通りにデータを集めることが出来なかったが、他の研究者にアドバイスを求めながら、なんとかまとめていきたい。②については、やはり赤ん坊の毛を抜くのが一番容易であるように感じられた。一方で一歳未満の赤ん坊の毛を抜くと、間違いなく母親が攻撃してくるよう予想された。抜毛の際に自身への危険がないか、さらには猿たちへ侵襲性が伴うかどうか、職員さんたちのアドバイスを聞きながら判断し、毛採取の適切時期を見極めていきたい。③については、問題なく遂行できた。④については、回収した SD カード内に何故かデータが見つからなかった。とはいえ電池は消耗されており、残記録時間も少なくなっていたので、どこかにデータは保存されているのだと思う。もっと準備を周到にして、来月に降に回収したい。また、今回ニホンザルの腸内細菌の共同研究のための試料採取も開始した。私のテーマ以外でも、小豆島の猿についての知見が明らかになっていけば嬉しいと思った。</p>	
	
赤ん坊と母親	猿の餌場に訪れるイノシシ
<b>6. その他</b> (特記事項など)	
<p>本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、銚子溪自然動物園お猿の国の皆様に感謝申し上げます。</p>	